

N1 第 60 课 古典文学谈礼仪(课文)

清少納言が許せないのは、教養を備えているべき人間が言葉のミスをするときです。たとえば、使用人が敬語の使い方をよく心得ていないで、自分のご主人に対してきちんと敬語を使ってしゃべれない時とか、逆に自分の行為に尊敬語をつけたりしているのを聞くと、清少納言は腹を立てます。

また、偉い人が傍にいらっしゃるのに、同僚同士が打ち解けた仲間言葉で「まろ(あたし)なんて言ってしゃべり合っているのも戒めています。人に聞かれても聞き苦しくない会話をすべきだと考えているのです。「相手や場面や効果を考えて、言葉というものは使うものです」。これが、清少納言の主張。それは、古今東西普遍的な言葉の運用の仕方です。一千年も昔の清少納言がきっちりそれを言い切っている。さすがですね。

言葉遣いばかりではありません。彼女の批判は、人としてのマナー、男のマナー、女のマナーにまで及びます。たとえば、マナーに欠ける人とは、「人の家を訪れて、汚いとかばかりに自分の座る場所をばたばたとゴミ払いをする人」「急用があるのに長話をする人」「つまらないことを満面に笑みをたたえて得意げにぺらぺらしゃべる人」。

『枕草子』は、清少納言という好奇心旺盛で斬新な考え方をする人間の存在によって初めて生み出された日本初の随筆文学。『枕草子』を分析していくと、エッセイストの資質も浮き彫りになってきます。①人と違った物の見方ができる、②興味関心の幅が広い、③観察力・批判力がすぐれている。

(山口仲美『日本語の古典』岩波書店による)

清少納言无法原谅的是本该有教养的人却在措辞上犯错。例如：雇工没有充分理解敬语的使用方法，对自己的主人不能正确地使用敬语说话的时候，还有听到对自己的行为使用了尊他语的时候，清少納言都会生气。

此外，虽然地位高的人在场，同僚之间互相说话却用无拘束的同辈语称自己“我”，她一直都在(对这一情况进行)告诫。她认为应该进行的谈话是即便被别人听到也不会感到不愉快的谈话。“应该考虑到对方和场合还有效果，语言就是使用的东西”，这就是清少納言的主张。那是古今海内外普遍运用语言的方式。一千年以前的清少納言已经精准地下了结论。不愧是清少納言啊。

不光是使用语言。她的批判还涉及到了做人的礼节、男人的礼节、女人的礼节。例如：缺乏礼节的人会有如下举动：“到别人家拜访时，就好像在说不干净一样掸去座位的灰尘”、“这边有急事，对方却一直不停地说话”、“满脸笑容得意洋洋地大谈无聊的事情”。

《枕草子》是由好奇心旺盛且拥有崭新的想法的清少納言创作完成的日本最初的随笔文学。越分析《枕草子》，随笔作家的资质就显现得越发清晰。①拥有和其他人不同的对事物的看法，②感兴趣

和关注的面很宽，③观察力和批判力超群。